

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和8年 4月 1日

事業所名 児童発達支援センターサンキッズ岩国

		チェック項目	はい	いいえ	課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	9		1クラスお子様5名を最大で編成しているが、日によって狭いと感じてしまう。	お子さまの体形や特性や性格等を鑑みて、クラス編成を行っているが、次年度については、更にクラス自体の専門性を加えた活動室を作っていく意向である。
	2	職員の配置数は適切である	5	4	職員の数が十分とは言えない。休憩時間等での手薄な状況がある。	職員の確保については、専門職（PT<OT）を登用できるように進めていく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	9		子どもの刺激になってしまうモノや配置の工夫が必要	視覚的優位なお子様が多いため、視覚の範囲で刺激になる又は誘因になり逸脱するような配置や設置は避けた構造化室を作る。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9			
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	9		PDCAサイクルの過程に従事して業務遂行が不十分である。	PDCAサイクルの標準化を目指し業務定着させる。逐一、気づきや疑問について話す機会を設定
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	9			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	9	1		保護者評価を踏まえ、改善して欲しいこと、期待していること、この2点から、優先準備と早急に実現できることを見極め支援に反映させる。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		9		現在、外部評価は受けていない。検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	9			応用行動分析の基礎理論を軸に2ヶ月に1回、コンサルタントを招き、研修の機会、実際の子どもの支援場目を観察して頂き、指導を受けている。次年度は発達障害者支援センターまっぷのコンサルテーションも受ける計画である。
適切	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9		ご家族からの基本情報や乳幼児発達スケール（KIDS）を反映しながらエビデンスに基づきながら計画を作成している。	保護者の方との面談する機会、個別支援会議等、計画的に実施
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	9			初回面談等で定型シートの作成・活用を進めていく。発達年齢に沿ったアセスメントを導入している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	9			計画書の見直しを行う。面談での聞き取る内容、聞き方、説明のやり方等改善していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	9			計画実行の支援効果を測定する機会を設ける。

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和8年 4月 1日

事業所名 児童発達支援センターサンキッズ岩国

	チェック項目	はい	いいえ	課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
な支援の提供	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	9			
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9			
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	9			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	9			
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9			毎日、その日の気付きや支援変更について職員間で話をしている。しかし、具体的な面についての支援者間の共有は不足しているため、補えるよう手順書を活用する。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	9			
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	9			
関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9			
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	9			引き続き、各所と連携を行っていく。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0			引き続き、各所と連携を行っていく。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0			
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	9			引き続き、適宜行う。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5			引き続き、適宜行う。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	9			
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	9		
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	9			
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	9			
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	8		今年実施出来ていない。	

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表：令和8年 4月 1日

事業所名 児童発達支援センターサンキッズ岩国

		チェック項目	はい	いいえ	課題や改善すべき点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	9			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9		保護者の方からの相談はその場で回答できない場合、後日、フィードバックしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9			
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	9		毎月、行事予定表を保護者へ発信している。	引き続き、情報発信を行い、透明性のある施設にしていく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9		外部からの閲覧が出来ないように電子記録にて管理している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	4	電話だけでなくLINEを上手く活用している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	9			
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	9		保護者への周知は十分ではない	保護者様への周知は出来ていない。取り組んでいく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9		毎月、災害に備えた訓練をおこなっている。	引き続き、月1回の避難訓練を実施する。内容は改善していく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	9		ご利用の前から疾患のあるお子様の情報については把握している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9			
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9		ヒヤリハットの報告や日中の気付きを常時、報告を受けている。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9		虐待研修、定期委員会は計画に沿って適宜、開催している。	来年度も継続
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	9		身体拘束をしなければいけない場面はない。但し、突発的に外に飛び出してしまう場面の際は施設を強化した。	身体拘束の対象児はいない為、計画に記載はこれまでない。